

NEW

鉄骨造 外壁1時間耐火構造  
強化せっこうボード(防水・防カビタイプ)2重張りで屋内側被覆材不要の新工法

# プラスター・モエン外壁耐火構造

1 下地に汎用品を使用

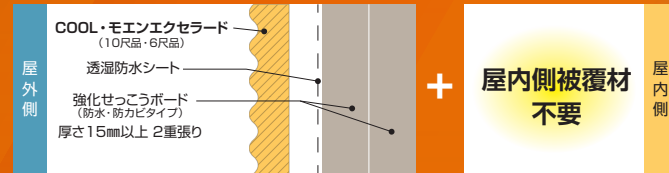
下地材は汎用品の強化せっこうボード\*で施工可能です!  
\*強化せっこうボード 防水・防カビタイプ

2 省施工・工期短縮 目地テープ不要

下地材の強化せっこうボード\*は、厚さ15mm以上の2重張り。  
鉄骨用釘で施工可能! 目地テープは不要です。  
\*強化せっこうボード 防水・防カビタイプ

3 屋内側被覆材が不要

内装工事が別途行われる商業施設などに最適です。



4 意匠性に優れ、メンテナンスコスト軽減

意匠性の高い500品番を超える豊富なラインナップ。  
高耐候塗料でメンテナンスの負担を軽減します。  
外壁仕上げ材: COOL・モエンエクセラード (6R・10R)。横張り限定。

5 柱・梁の1時間・2時間耐火構造を取得

柱・梁の合成被覆1時間・2時間耐火構造を取得  
中高層の建物にも使用しやすくなりました。

「モエンエクセラード」が鉄骨造5階建て以上の建築物にも使用しやすくなりました。

窯業系サイディングメーカー初!  
柱・梁の合成被覆

省施工・工期短縮で、商業施設や事務所ビルなどにもオススメ!  
2時間耐火構造認定を取得

※2020年3月時点

釘打ちでスピード施工 目地テープ不要

## 強化せっこうボード

t=15mm以上 2枚 (防水・防カビタイプ)

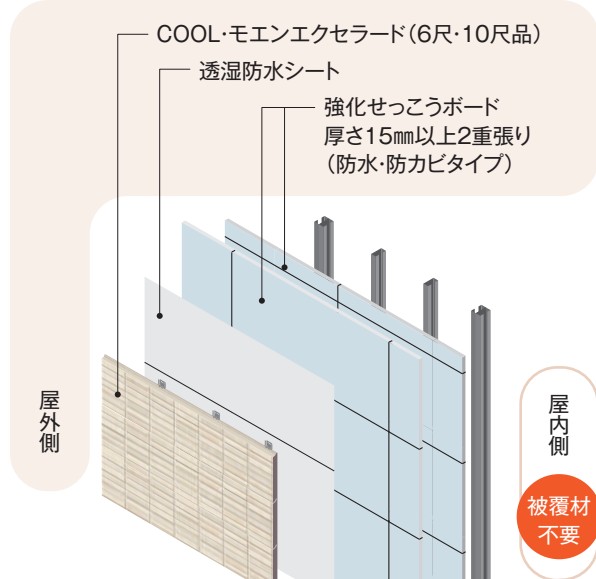
留め付け: 下張:鉄骨用釘またはビス(φ2.5×38mm以上)  
上張:鉄骨用釘またはビス(φ2.5×50mm以上)



※写真はイメージです。

### ■外壁構成概略図/適用条件

外壁(非耐力)1時間耐火構造



適用範囲	
構造	鉄骨造
部位	外壁(非耐力)
外壁仕上げ材	窯業系サイディング ・COOL ・モエンエクセラード(6尺品・10尺品)
外壁仕上げ材施工法	横張り 通気留付金具工法

\*施工高さや耐風圧性能、下地条件などの詳細については最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。

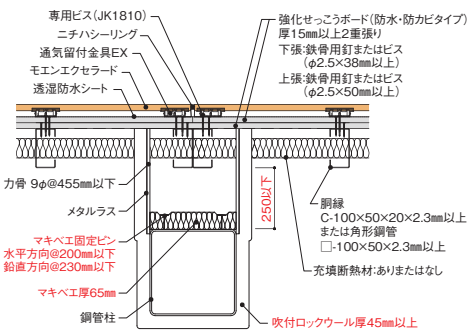
●詳細は認定書別添をご確認ください。

## 2 柱・梁の合成被覆 2時間耐火構造

柱・梁の合成被覆  
2時間耐火構造の  
施工要領はこちら



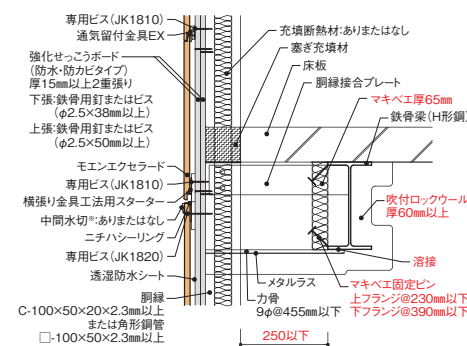
### 2時間耐火構造 合成被覆柱



■耐火構造認定番号

合成被覆柱2時間(鋼管柱)	
充填断熱材なし	FP120CN-0828(1) / (□-300×300×9mm以上)
充填断熱材あり	FP120CN-0828(3) / (□-300×300×9mm以上)

### 2時間耐火構造 合成被覆梁



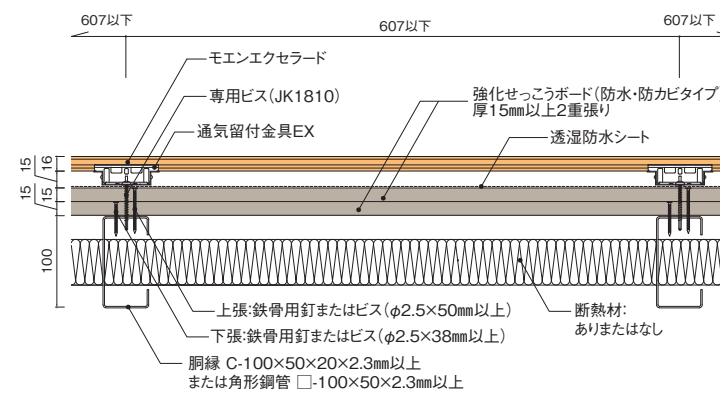
■耐火構造認定番号

合成被覆梁2時間(H形鋼)	
	FP120BM-0592 / (H-250×125×6×9mm以上)

※ 図は縦衝目地を想定した中間水切ありで表現しています。

## 外壁(非耐力)1時間耐火構造

### 1時間耐火構造 外壁(横張り)

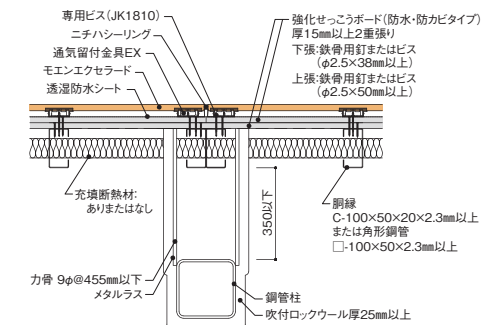


■耐火構造認定番号

外壁1時間(主要構成部材)	
充填断熱材なし	FP060NE-0251(1)
充填断熱材あり	FP060NE-0251(3)

## 柱・梁の合成被覆1時間耐火構造

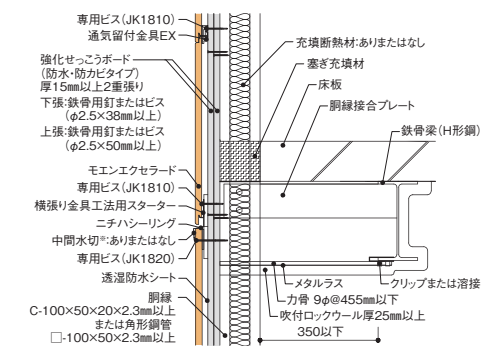
### 1時間耐火構造 合成被覆柱



■耐火構造認定番号

合成被覆柱1時間(鋼管柱)	
	FP060CN-0819 / (□-150×150×6mm以上)

### 1時間耐火構造 合成被覆梁



■耐火構造認定番号

合成被覆梁1時間(H形鋼)	
	FP060BM-0573 / (H-200×100×5.5×8mm以上)

※ 図は縦衝目地を想定した中間水切ありで表現しています。

# ニチハの軒天 軒天材12 木目調 無孔板限定 が 建築用鋼製下地 (LGS天井下地) に 施工できるようになりました。

※耐火構造の認定は取得していません。

軒天12 木目調 無孔板 ティンバーベージュ ※写真はイメージです。

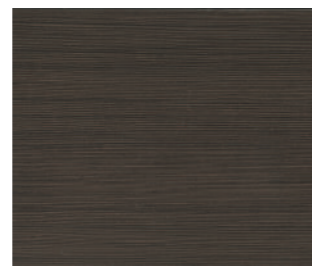
軒天12	木目調	シリコンアクリル エマルジョン塗装	耐燃性 トップ クリア	無孔板
------	-----	----------------------	-------------------	-----



YL141 ティンバーベージュ



YL142 ティンバーブラウン



YL143 ティンバーチャコール

■鋼製下地条件

施工可能軒天材	軒天12 木目調 無孔板 (YL141/YL142/YL143)	※鋼製下地での準耐火構造認定は取得していません。	建築用鋼製下地	耐風圧用下地 野縁:JIS25形 ダブル野縁(CW-25) 50×25×0.5
不燃材料認定番号	NM-3010(有孔板除く)		(推奨) 留付ビス	軽天用ビス(JIS品 ステンレス) φ3.5×25mm以上 フレキ頭

建物高さ	45m以下	耐風条件	算出された風圧力が、表に示す軒天材の許容風圧力以下であること
------	-------	------	--------------------------------

- 設計耐風圧は、下地メーカーの設計基準による下地組とし(野縁ピッチなど)とし、軒天材の許容風圧力は表から適切なビスピッチを選択してください。
- 風圧力に対する施工条件は建物高さ45m以下とし、条件に沿った風圧力の算定をしてください。  
(※風圧力は、施工高さではなく建物高さで決定されるのでご注意ください。)
- 下表の数字は、建設省告示第1458号により、帳壁について閉鎖型建物・負圧・隅角部にて算出した、想定される風圧力です。

■軒天材の許容風圧力

単位:N/m <sup>2</sup>		野縁間隔		
		@303mm超	@303mm以下	@227.5mm以下
ビス ピッチ	@303mm超	×	×	×
	@303mm以下	910幅4本留め	×	1307
	@227.5mm以下	910幅5本留め	×	1741
	@182mm以下	910幅6本留め	×	2176
	@152mm以下	910幅7本留め	×	2605

■風圧力 算出例

建物高さ (m)※	地表面粗度区分:Ⅲ地域					
	基準風速(m/s)					
	30	32	34	36	38	40
45m超	施工不可					
45	1367	1555	1756	1968	2193	2430
40	1304	1484	1675	1878	2092	2318
35	1236	1406	1588	1780	1983	2198
30	1162	1322	1493	1674	1865	2066
25	1080	1229	1388	1556	1734	1921
20	988	1124	1269	1423	1585	1757
15	881	1002	1131	1268	1413	1566

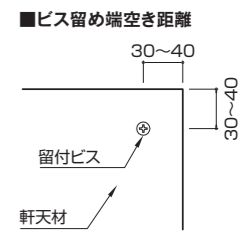
※風圧力は施工高さでなく建物高さで決定されます。

軒天材(軒天12 木目調)を建築用鋼製下地材(LGS天井下地)へ施工する場合は、以下の施工要領で施工してください。

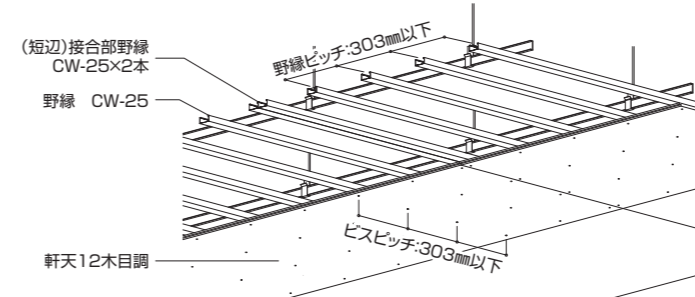
施工要領

※鋼製下地での準耐火構造認定は取得していません。

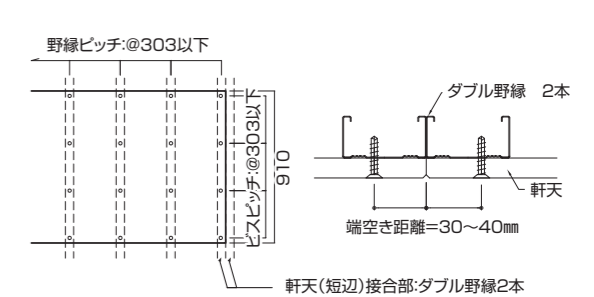
- 建築用鋼製下地(耐風圧仕様)を下地メーカーの標準設計施工に準じて施工し、かつ以下の施工要領で施工してください。
- 野縁ピッチはダブル野縁(CW-25)@303mm以下とし、野縁-軒天材直交方向の場合の軒天短辺接合部(突き付け)、野縁-軒天材平行方向の場合の軒天左右接合部(実接合)は、ダブル野縁を2本施工してください。  
※野縁-軒天材直交方向施工時の短辺接合部は、軒天材小口を面取り加工し、面取り部を補修液にて補修してください。  
※野縁-軒天材平行方向施工時の短辺接合(突き付け)はしないください。(施工長さは軒天材長さ以下となります)
- ビス留めは、ピッチ@303mm以下とし、野縁ごとに留め付けます。また、ビス留めの材端空き距離は30~40mmとしてください。
- ビス留めは、先孔/座掘をし留め付けます。ビス頭はパテ処理・補修液で補修してください。



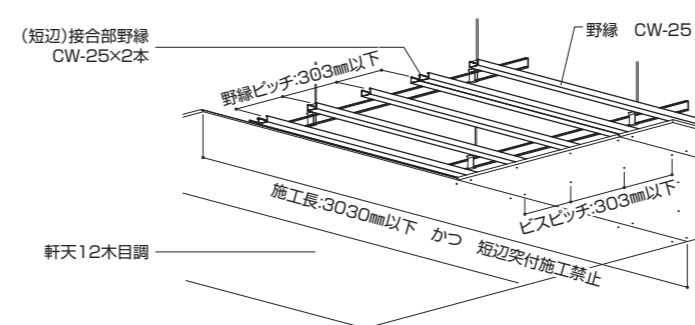
■野縁-軒天材 直交方向の施工例



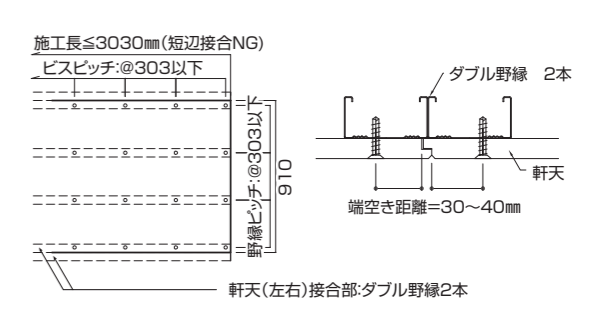
■野縁-軒天材 直交方向時ビス留め



■野縁-軒天材 平行方向の施工例



■野縁-軒天材 平行方向時ビス留め



- 注) ビス頭の補修跡は見る距離や光の加減により目立つことがあります。ビス留め位置を揃えて施工し、ビス頭の補修範囲は最小限としてください。
- 注) 軒天材の接合部に隙間が出ないように施工してください。(環境によっては、鋼製下地や軒天材に寸法変化が起き、目地隙が発生することがあります。)
- 注) 高温・高湿となる箇所への施工は避けてください。
- 注) 軒天材および補修液以外の部材は現地にて調達してください。